

参加された皆さまからすばらしいお便りが届きました！



変わった中国
副団長 イデシギヨイ(株) 井出 芳則

植林に参加して連続9回となりますが、当初の中国は都市にも田舎にも木が無い、少ないと痛切に感じたことを覚えています。しかし、今回中国を見て変わっております。

それは街の中、高速道路、一般道路沿いにも植林をした痕跡を残し、細い木があちこちに植えられていたからです。

我々植林実践会のこれまでの12年に及ぶ地道な活動が、少なからず中国の植林に対する考え方、国家的プロジェクトに貢献しているのだと自負することが出来ます。

これまでの植林は、主に斜面や小さな岩が混ざった硬い地面を掘り、10本も植えれば体中から汗が噴出す程の難作業がほとんどでした。今回は平地で土が軟らかく、一度穴を掘って軽く土をかけてあり、尚且つ植林木がその場に用意してある状態でしたので、植林は大変楽な作業で10本以上は植えましたが汗一つかきませんでした。

植林終了の翌日は青島に向かうため大連空港に着いてみると、我々の乗る予定の飛行機は飛び立った後でした。何かの行き違いでトラブルになったのですが、



30名近い人数のチケットが当日手に入るのかと心配しましたが、水野団長の冷静な判断と指示で5〜6時間後のチケットが取れたので、その間旅順を視察し無事青島に着き視察も終え、日本に戻ることが出来たことを感謝申し上げます。来年度の植林も心待ちにしております。



望まれて植林を
副団長 (株)湧別商事 小島 博

12回目植林を花園口開発区老古林村にて参加されました皆様のおかげで、盛大に執り行いました事に心から感謝いたします。

この植林会の大連近郊に特化した植林事業に個人的賛同者の方が増え、心強く感じると共に参加された方のご紹介により、今後の植林活動を通じて中国の環境保全に貢献して頂ける方と一緒に、汗を流し苗木を植え続ける事を楽しみにしています。

人間が生まれて成人になるまでには、特に幼年期、少年期に親の愛情と保護を最も必要として成長します。

植えられた苗木も最低20年間は人の手を必要としているのです。植林後10年間の下草刈りに除伐その後一回目の間伐や剪切をして枝払いと、まさに人間と同じで植えただけで成木にはなりません。

日本と中国が真剣に取り組んだ植林と育林は何十年後に鎮守の森となっている事を夢に想い願っています。

私にとって、この様に新しい気持ちで植林ができた事は岫岩以来で、来年からの植林活動をまた楽しみにしています。

今回後援と協賛を頂きました大連市人民政府政治協会、対外友好協会、林業局

花園口管理委員会、老古林村、王志運様、経済合作局姜部長、大連アリス呉社長、皆様ありがとうございました。

また大連岩崎電気有限公司様は子供たち57名を含む201名でご参加頂きました。山本康晴様、瓜田雄一様、日本国駐瀋陽総領事館領事 中村実様、財団法人かめのり財団 菊地佐智子様、そしてこの植林に係わって頂きましたすべての皆様に感謝しています。ありがとうございました。



中国に恩返しを
副団長 (株)吉野家 阿井 正夫

今回は12年間の継続のなかで、4番目の植林場所となりましたが、この新しい植林地の「花園口」は大連からも大変近く、交通の便が非常に良い所でした。

昨年までの岫岩県と同様に、現地の中学生や住民のみなさんの参加で盛大な日

中友好植林式典となり、現地の人々との絆が一層深まったことを実感し、大変に感激いたしました。

私自身、日中環境保全友好植林実践会の発足以来10年以上にわたる活動に携わってまいりましたが、当時から問題であると思っていたのは、私たち日本人は中国から様々な物を輸入して豊かで文化的な消費生活を享受している一方で、特に農村地域では非常に貧しく、その日暮らすのがやっとなような人々がまだまだ多数いらっしゃるという現実です。

そのような現在の中国の状況は、ちょうど40年前の日本と酷似していると思われま

京の中心を流れる隅田川はどぶ川でした。このように、およそ環境問題というのは経済的にも精神的にも余裕がでなければ、対処が難しいものであると思います。

幸いにして現在の我々は、中国の大地に木を植える、その手助けができるだけの経済的豊かさがあります。

今回も植林地の近くで、「山に太い木がない」「貧しい農家がたくさんある」という状況を実際に見るなかで、我々は何らかの形で中国に恩返ししていかなければならないと、改めて強く思いました。

たしかに我々の活動はまだまだ小さいものですが、実際に行動する、やろうとすることが大切なのです。現に植林式典への参加者も、我々の活動に共感、賛同して参加していただく方々が、少しずつではありますが増えています。

私たちの活動をもっと多くの人々に伝えて知ってもらおう。そして植林の輪が数年後、さらに数十年後にはさらに大きな輪となり、木々の成長とともに日中友好の大きな懸橋に育っていくことを願ってやみません。



大連市花園口の緑縁
副団長 (有)佐藤商店 佐藤 浩一



今年で12回目の植林を迎えました。当日は朝早くから雨が降り続き、肌寒い天候でした。参加者のほとんどの人はこの天気を心配そうにしていますが、私は必ず晴れるという妙な自信がありました。今までも早朝に雪が降ってもドシャ降りの雨でも植林時には必ず晴れていたからです。「良い事をする日に神様が祝福

をしないはずが無い。」などと勝手に解釈しています。案の定、植林開始前には雨が上がり、植え終わる頃には太陽が顔を覗かせました。植えられた木々達にとってはまさに恵みの雨となった訳です。

今回の新たな植林地の選定には非常に苦勞しましたが、昨年より花園口経済区管理委員会とのパイプ役としてご尽力賜



当時の日本は、昭和39年に東京オリンピック、昭和45年に大阪万国博覧会が開かれ、急速な経済発展をしている時代でしたが、経済最優先で環境問題までの対処ができて、今でも覚えていますが、東



新聞・インターネットを通じて報道されました。来年にはこれを見られた新たな賛同者が参加され、日中友好植林の緑縁が広がっていきそうな予感がします。

遼寧省ではこの数年緑化事業にたいへん力を入れており、その予算も年々拡大しているようです。来年の予算は472億円余りに上ります。植林後の昼の宴席で林業局長から聞いた話によりますと、今回の植林には花園口経済区官吏委員会から60万円(約840万円)の植林費を捻出したとの事です。改めてこの地でやってみようかと実感しました。

さて皆様もすでにご存知の事と思いますが、日中環境保全友好植林実践会は、昨年の環境大臣賞に引き続きまして財団



また、御多忙の折にも関わらず御臨席を頂いた、在瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所中村領事御夫妻及び林副領事の御協力に對し申し上げます。あらためましてここに御礼申し上げます。

ところで、今回は財団法人かめのり財団様からのかめのり賞の表彰を頂き、また大連電視台からの取材も頂き、関係各位からの注目を集めた植林実践会でした。その折、水野理事長達への所望「現地の学生との環境保全に関する意見交換会」を開催することができました。前途洋行たる花園口経済区の中学生と活発に意見を交換致し、実践状況も紹介できました。これは、汗を流して共同で実施する植林作業との相乗効果で、双方に絶対的な良好循環を促進したとの認識を強く抱きました。彼らにとつて初めての外国人との触れ合いの場に於いて環境保全を意識できたこと、これは日中友好に於いて最大限の潤滑油として浸透し作用していくものであると信じております。(そのような大切な場の司会に於きまして、少なからぬ不備を招きましたこと、ここに深くお



託び申し上げます)

最後になりましたが、御準備に東奔西走頂き、友好植林の実践の礎を築いて頂きました。水野理事長、小島理事、並びに佐藤理事、中田事務局長、そして水野産業株式会社上海事務所田所長の御尽力に最大の敬意を表し御礼申し上げます。

この活動が、今回の成功を機に更なる飛躍的發展を遂げ、日中友好の礎を築き続けることを冀求する次第です。

今回も、日中双方からの民間参加者、理事、そして現地政府、林業局、並びに大連岩崎電気有限公司様各位の絶大な御協力の下、無事に本年度の植林事業を實踐することができました。あらためまして各位の御尽力御協力に謝意を申し上げます。

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ



更なる飛躍的發展
(株)まるき 木下 淳

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ



皆様感謝申し上げます。ありがとうございます。また、来年の植林実践会でお会いしましょう。



緑化活動は災害防止に有効的な手段
大連岩崎電気(有) 瓜田 雄一

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ

今年も大連市開発区の岩崎電気様から大勢(201名)の参加者を、瀋陽日本国総領事館大連出張駐在官事務所から中村領事夫妻と林香織副領事の参加を賜りました。ありがとうございます。その上大連テレビ局の取材クルーまで来ていただいて、今回の植林の様子がテレビ



緑豊かな大地を未来に
(財)かめのり財団 菊地 佐智子

日中環境保全友好植林実践会が、昨年度、当財団の顕彰事業である「第3回かめのり賞」を受賞され、実際に大連市での植林事業の様子を見ていただきたい」とのご招待を受け、今回、参加いたしました。かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアとの相互理解の増進に草の根で貢献している方々の活動を顕彰するもので、植林実践会は長年にわたる中国での植林活動や日中両国の市民、子どもたちとの協働による活動を通じ日中友好親善を推進していることを高く評価し、表彰団体に選ばれました。

当日、植林地の花園口では、地元の小中学生の演奏で迎えられ、式典が始まり、子どもたちとペアになって滞りなく植林へと移りました。こうして参加者である私が、「滞りなく」と感じられたのは、この日を迎えるために現地自治政府関係者や水野理事長をはじめとする植林実践会の事務局の方々の余念がない準備があったことと実際に参加して強く感じました。植林がスムーズに進むよう長靴や手袋の準備、木を植える場所も予め準備されており、ここに至るまでのご尽力に心打たれる思いがしました。当日は朝からあいにくの雨で、バスでの移動中、ひどくなる雨足に心配をしていましたが、植林地に到着した時には、雨もあがり植林時には青空が顔を見せていました。この日のために準備してきた方々の思いが通じたような気がします。

ひとりひとりの植えた木々は、救えるほどかもしれないませんが、それが今回の参加者、数百人という多くの人の手でたくさん植えられることができました。そして広大な中国では、一回毎の植林の広さは一握りかもしれませんが、毎年の積み重ねが今回の第12回に至り、確実に森が広がっています。このように個々の力が大きな力となって緑豊かな大地を造り、毎年中国の関係者と協働しながら、植林事業

がよりよいものとなっていることを実感しています。また、関係者の方々の熱意に触れ、「かめのり賞」授与の意義を改めて感じました。

少し残念だったのは、植林の時間があつという間に終わって、子どもたちとの交流の時間が少なかったことです。子どもたちの植林事業参加の感想などこれからは新緑で、秋には色づき人々の目を魅しませる森になり、この地域の風景が色鮮やかになっていく情景を思い浮かべながら、花園口を後にしました。

最後に、素晴らしい活動が体験でき関係者の方々に心より感謝申し上げます。植林実践会の熱意が今後も中国との友好を深めていく大きな力となることを願っています。



日中友好植林が地球環境にも貢献
(株)日東ストローク商会 米田 忠雄

第十二回目となる植林は、新地大連市花園口経済区で行われると伺い、期待と楽しみで現地入りいたしました。当日途中までは雨でしたが、今までも植林の現場に入る時は必ず晴れになっていたから大丈夫」という佐藤副団長の信念の通り、次第に天候が回復したことは驚きでした。

今年の植林は小島様、佐藤様、ならびに木下様の事前の段取りと、現地の方々の友好植林に対する大変な協力をいただき、今までになくスムーズに進行することができ、余力を持って無事終了いたしました。

植林の始まりは、日本で使用する割り箸の莫大な消費量を賄うため、中国で大



第一回と比較して

(株)水晃社 赤堀 晃治

今回も有意義な植林活動ができたことをお慶び申し上げます。

1999年の黒竜江省饒河県での第1回植林を皮切りに今年で12回を数えますが、第1回より皆勤賞参加の「晴れ男」佐藤浩一副団長には「今回もご苦勞様でした」と申し上げます。お蔭様でこの植林会はこれまで一度も雨に降られていません。

1回目の植林活動を振り返りますと、当時は北京から牡丹江へ飛び牡丹江から寝台列車で16時間かけ東方江駅に着き、更にバスに乗り換え舗装していない山道で4時間走る山奥でした。今回の花園口とはまるで別世界の出来事のように、当時を思い出します。

第1回目の植林時に参加した子供達は、今では立派な大人になり共に植樹した12年成木の木々を眺めながら自然環境の大切さを感じていることでしょう。

今回の現場は大連市から比較的近く平

量の木材が伐採されたことにより、中国の森林が減少してしまつたことに対してそれを少しでも回復させるためだったと認識しております。

時代が移り日本では割り箸の使用は減少しております。しかし中国では経済は急速に発展しておりますが環境対策の分野ではまだまだ遅れているようです。その為、日中友好は無論のこと、二酸化炭素削減や黄砂の飛来を防ぐなど地球環境に貢献する意味でも、日本からの植林事業は欠かせないものとなっております。

今後の植林事業のますますの発展を願うとともに、私自身も微力ながら植林事業に貢献したいと考えております。

地なので、これまで行なった中国の他の植林現場と比較しても大変な所でした。また苗木の生育条件環境も良く、これからの成長が楽しみになり、同時に数年後に自分の植えた木が成長し、森となっているところを子どもや孫と見に来るのにも、この場所なら苦にならないと感じました。そのころには今の日本以上に発展したGDP世界第1位か2位の中国がある事でしょう。

第1回から今回第12回までに我々が関わって中国大陸の各地に植えた苗木の総数は、約90万本に上るそうです。

日中環境保全友好植林実践会の理事会・事務局の努力とこれまでの参加者皆様のご協力のお陰で、一昨年は「環境大臣表彰」、今年のかめのり財団より「かめのり賞」を受賞し、世の中に認められました。この会が今後も永続して地球環境保全に貢献してゆくことをお祈りいたします。



余談になりますが、今回青島行き中国国内便の出発時間変更で思いがけなく初めて旅順の203高地、水師営が視察できたことで、大連市には何度も足を運びますが小学校の終身教科乃木大将のことを習った身としては、この上なく感謝しております。



植えた木を心配して。
(有)佐藤商店 佐藤 正勝

今年も昨年同様植林事業に参加させて頂きました。今年も我々実践会メンバー約40名と大連岩崎電気有限公司様201名、地元小中学生合せて約300名と地元関係者含め合計約650名と植林を行いました。

今年も、中国大連市内より約110kmの花園口と比較的近い所で植林を行いました。地方と同じ様に森林が無い所に約40、000本の木を植林しました。

現地小中学生も我々日本人(外国人)と一緒にになり、日本人とペアになり一生懸命植える姿を見てると参加する度思いますが、今年も植林会に参加出来た事が大変うれしく思いました。皆で植えた木が十数年たった時に、大きくなった木を見て、今回植林に参加された小中学生たちも大人になり、自分の子供達に皆で植えた木の事を話が出来る日を楽しみにしています。



チエンジ
イデシギョー(株) 井出 貴臣

第12回日中環境保全友好植林実践会へ参加させて頂き、これまで3年連続の植林活動となりました。また、本年から新たな植林場所として大連市にある花園口が選ばれました。

大連市街からバスで1時間少々場所存在しましたが、周辺はやはり緑の無い裸の山々といった地域でありました。前回の植林活動から実なる木も植えよとの事で、昨年は梨・栗・杏などを植え、今年は銀杏、紅葉、トウヒの木を植



樹する事となりました。

花園口の植林場所に着くと、地元の住人や小中学生が暖かく迎えてくれて、歓迎のセレモニーが開催されました。

毎年、苗を植える箇所へは、あらかじめ一度穴が掘り起こしてあり、私たちがスコップにて掘りやすい様に段取りして頂いておりますが、今年は穴の中に「当たり」と書いたカードを仕込み、発掘された人へは景品が用意されているとセレモニーでの挨拶の中で話が出ました。

この宝探しの様なアイデアが非常に良かったと感じました。

地元住民や小中学生も一生懸命に穴を掘り、植樹とカード探しをするので、植樹活動のスピードがこれまでに経験した事無い位のスピードで進みました。

私も地元中学生の男の子とペアを組み、カード探しを兼ねながらの植樹を行いました。カードは発見出来ず...

花園口の植林場所は前年までの土地の様で、岩や煉瓦や瓦などが穴掘りの行く手を阻むものとは違い、障害物も無い非常に穴の掘りやすい柔らかな土でしたので、植樹スピードも効率良くスピーディー

又、今回、植林が終わった後、現地中学生15名と我々植林実践会メンバー全員と環境についての意見交換会をし、中学生達も外国人と会談するのは初めての経験でしたが環境について色々意見を持っていました。その中の一人の女の子から「今回みんなで植えた木が、地元の人に切られてしまったらどうなるの」との心配の意見が有り、植林実践会水野団長から「今後50年は切らない契約」等の話をした所、安心した顔になった事が印象に残っています。自分達で植えた木が、他人に切られるのが心配で仕方が無いからの意見だと感じました。

1に進んだと感じられました。本当あつという間に、指定された植林場所に銀杏の苗が植えられました。

銀杏は桃栗3年の様な成長スピードでは御座いせんが、約10年間で銀杏の実を付けて聞きました。植林場所を後にする時、立派に成長して沢山の実を付けてくれる事を心より植樹した苗にお願いしました。その後、地元中学生15名との意見交換会を開き、水野団長からの植林活動による環境の復元や、緑の森が出来る事による周辺の変化についての説明がありました。15名の地元中学生全員が初めて外国人と接点を持ったという事や、地球温暖化という言葉をわずか1名しか知らなかったという事実もこの席の中で分りました。何か時間が止まってしまっている感じがして胸が痛くなる思いでした。

地元中学生からの質問として、村の間が木を切ってしまったらどうしたら良いか?という意見が出ました。この質問を聞いた時、やはり冷暖房も無い環境で寒い冬を越える為に、木を切り、薪を作って暖を取る生活風景が頭に浮かびました。

私達は、日本に生まれ、恵まれた環境の中で生活を送っておりますが、一方ではこの様な厳しい環境で生活を送っている人々がいる事は決して忘れてはいけない事だと痛感しました。素朴な質問でし

この様な意見交換会は、我々にとって良い経験になったし、地元中学生にとつても大変貴重な体験が出来たのだと思います。

13回・14回と植林の実践を続けて行き、続ける事が大切なので、参加出来る限り参加し、一人でも多くの方に参加の呼びかけをして行きたいと思えます。

今回、植林事業に参加された皆様方には、滞在中に大変お世話になりました。来年13回目もお会い出来る事を楽しみにしております。

だが、地元中学生達はこの植林による効果を非常に期待している為に、木を切られてしまわないかという不安があったのだと思います。

その質問への返答として、佐藤副団長より、植林後50年間は伐採禁止の契約を結んでいる説明がされ地元中学生達にも安堵の顔が見られました。

私達のこの植林活動は、環境の復元と、



全ての種の生き物が絶える事無く存続し続けられる様に行われております。この花園口も緑あふれる土地にチエンジする事を心より願っております。最後になりましたが、参加された皆様、そして理事の皆様方、お疲れ様で御座いました。

来年も参加させて頂きますので、宜しくお願い申し上げます。



植林が地球が求めている一番大事な事業。
陽明印刷(株) 新妻 康宏

随分綺麗になったなあ。この度、植林に参加して最初に感じた中国の印象です。昨年迄は訪問した場所も悪かったのか、あまり進歩が感じられませんでした。

ところが今回の植林地並に訪問先では恐ろしい程の速度で建設ラッシュが進み、目を見張るような経済発展の速度を感じました。

ところで、肝心の植林のことですが今回は一段と楽をさせて頂き、地元関係者の皆様にも心より感謝申し上げます。

又、この事業を今日迄続けてこられた水野団長を始め、中田事務局長並びに多くの関係者の方々にも厚く御礼申し上げます。



私自身も身体の続く限り、この意義ある事業に参加させて頂いただけに幸いです。



子供達と成長する木

(株)東京クイン 飯塚 正人

今年も昨年に引き続き、第12回植林事業に参加させていただきました。実践会参加者39名と、大連岩崎電気有限公司様201名(内子供57名)と地元小中学生300名と地元関係者にて植林を行いました。事前の段取りと今回は特に地質がよいせいか(いつもは石だらけ)スムーズに植えることが出来ました。

今年も昨年に引き続き、第12回植林事業に参加させていただきました。実践会参加者39名と、大連岩崎電気有限公司様201名(内子供57名)と地元小中学生300名と地元関係者にて植林を行いました。事前の段取りと今回は特に地質がよいせいか(いつもは石だらけ)スムーズに植えることが出来ました。



植林体験と説明で教えることが出来、ここに植えた木は子供達と共に立派に成長すると確信し、私自身大きな喜びの収穫となりました。

最後にになりましたが、今回の植林に参加されました方々、毎回、ご苦労と努力を重ねております水野団長以下各理事の皆様は感謝申し上げます、来年の植林活動がとうございました。



植えた木が誰かに伐られたら

溝端紙工印刷(株) 和田 欣也

今回、初めて日中友好植林事業に参加させて頂きありがとうございます。今回の植林活動が私の初めての訪中となりました。弊社からも毎年参加させて頂いており話を聞いていましたが、どんなところで植林をするのだろうか?と考えるから大連空港に到着。

が、今回植林した木は「50年間伐らない」と言う契約になっていると聞き、ほっとした表情が印象に残っています。水野団長のなぜ植林をするのか?が続いていく大切にしている話を、中学生の皆が真剣な表情で聞いているのがまた印象的でした。植林により根が増え雨が降り葉の養分を含んだ雨水が濾過され、湧き水として溢れ農作物が育つと言う誰もが考えればわかる事を続けていく事が、日本にとっても中国にとっても良い事だと考えます。



植林実践活動がら得た誇り

福助工業(株) 猪川 正臣

この度は第12回日中友好植林実践会に参加させていただきまして大変有難うございました。初めての参加でしたが、実に感動多き植林実践の旅となりました。

ました。行い正しければ天も味方してくれる。まるで脚本の世界にいるかのような錯覚を感じました。

日中友好の重さ、大切さを感じ誇らしい思いになりました。

植林地花園口に向かうバスから見る景色は、郊外に向かうほど緑が無くなり砂漠化が進んでいる事を改めて認識し植林地に到着。大連岩崎電気株の社員の方と共に地元の方をはじめ、小中学生の歓迎を受け植林が始まりました。言葉の違う国の2人が組になりひとつの作業を行う。言葉は通じなくてもお互いの役割を考えスコップを持ち土を掘り木を植える。一本が終わるとお互い頷いて次の木を植える。今まで無い感動がありました。何年か先、この木がどれだけ成長したか一緒に植林をした中学生と見たいと考えました。

植林活動が地球環境と言う言葉からみればほんの小さな活動になるのかもわかりませんが、日本と中国が一つの目的を掲げ毎年やり続けて行く事が大切な事だと思います。最後に水野団長はじめこの活動にご協力頂きました関係者の方々、参加されました方々に感謝いたします。有難うございました。



直前までの雨のおかげで植林場所の土も柔らかくなっており、スコップを差し込むのがとても楽でした。目標を20本にしてみました。7、8本しか植えられなかったと思いますが、植える木はたくさんあったはずなのに、現地のたくさんさんの参加者を含む全員が我先に作業された結果、私自身はもう少し植えたかったと残念な思いを感じながらも一気に植え終わった実感がありました。

そして、作業終了後に小山の上に立つ立派な友好記念碑を見て、さすが中国はやる事が形式的で大袈裟だなと感じました。しかし、一番感動したのもその記念碑でした。それは友好記念碑の裏側に植林実践参加者として自分の名前を見つけたからです。まさか中国大連の地に自分の名前が刻まれるとはゆめゆめ思っておらず、改めてこの植林実践会を通して

結びとして、水野団長始め理事の皆様、参加された皆様のおかげで和氣藪々の中無事に植林実践を終えることが出来ましたことを感謝申し上げます。

また必ず参加したいと思えます。次に参加する際もどうか宜しくお願い致します。



気持ちを通じ合える

デンカポリマイ(株) 増田 昭則

第12回日中環境保全植林実践会に参加させて頂いた当に有難うございました。

忘れられないとても貴重な経験をさせて頂きました。

また高級車の多さが目立ち、まさに今の中国の勢いを感じました。

一方、日本では考えられない交通事情の悪さ。

人は普通に走っている車の隙をぬって信号機のない場所でも平気で横断をする車のクラクションは鳴りっぱなしの状態です。

大連市街地から植林地までは高速をつかい約一時間半でした。

高速を下りてから植林地へ向かう街並みは、大連市街地とは全く違い貧しい家屋が多く、瓦礫の山やゴミ山があちこちで目につき、環境の悪さを感じました。

また、一番印象に残ったことは全く緑がない事です。広大な土地は全て茶色。日本では考えられない景色に驚き、森林破壊から環境破壊、そして砂漠化の現実を実感致しました。

植林地ではプラスチックバンドと関係者の方々



初めての中国と植林活動 北越パツケトジ(株) 後藤 昌晃

今回初めて日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂き誠にありがとうございました。

初めての中国はいろいろな意味で印象に残るものになりました。

大連市内での貧富の差を目の当たりにし、交通整備の整っていない道路はクラクションが鳴り響き、その道路脇はポリ袋等のゴミがたくさん捨てられておりました。

植林地へ向かう途中バスからの景色が大連市内のマンションやビルの風景から市街地の山・農村風景になり、到着した花園口は映画で見る昔の中国だと感じました。家は汚く、荒れ果てた農地・緑の無い山が広大に広がっていることにおどろきました。

あまりにも日本とは違うという印象を受けたと同時に、植林の大切さをここにきて本気で感じました。

の熱烈な歓迎を受けました。

たくさんの地元の方々、また学生の方々の歓迎を受けてこの活動の規模の大きさに驚き、環境を考えた友好活動である事を実感し感動しました。

当日は朝から雨模様。気候も寒かったのですが歓迎セレモニーが始まり実際に植林を行う段階になるとなんと快晴となり気候も暖かくなりました。

植林は地元中学生とコンビを組み二人一組で行いました。地元の子が一生懸命植林の場所を探し、私は懸命にスコップで穴を掘り苗木を植えます。言葉は通じませんが同じ目標に向かい取り組む事でコミュニケーションが取れて、お互いの気持ちが通じ合える事を実感致しました。忘れられない思い出です。

またいつか植林をした現地に再び訪れて、この地に植えた苗木の生長をみたいです。

地元女子中学生による歓迎の演奏が鳴り響く中のセレモニーを目の当たりにし、この活動の規模の大きさに驚きました。

毎年この植林が行われる日は一回も天候に恵まれたそうなのですが、今回はホテルを出る時から雨が降っており少し不安な気持ちでございましたが、植林地に近づくにつれ雨はやみセレモニーが始まる頃には太陽も少し見えてきてほっと致しました。

そんな中、植林が始まりました。白い長靴を履き、手持ちの無い長い一本のスコップを持ち、地元中学生と苗木一本一本に気持ちを込めて植えました。言葉は通じなくても、一つの目標の為に汗をかきながら一緒に植林をする事で、自然に笑顔になり心が通じ合えたような気がしました。綺麗な水・空気が地球上に当たり前のようである為には、まず植物が生え繁っている事が重要であり、その為には

このとても素晴らしい植林活動が今後も継続され、もっととっと広まることを期待致します。

最後に今回の実践会では水野理事長様、中田事務局長様、はじめ参加された皆様方に大変お世話になりました。また、多忙期にも関わらず、快く送り出していただいた弊社関係者各位には心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。



人間が当たり前のように自然を大切に生きる方をすることが重要だと思えました。

植林活動を通じて様々な意見交換を行ったことにより、植物や動物が豊かであることにより、始めて人間も豊かになれるのだと思えました。まずは日本で自然に対して出来る事を考え、少しずつでも行動に移せるようにしていきたいと思えます。

最後になりますが、初参加の為ご同行させて頂きました皆様には大変お世話になりました。また植林という貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。



純粋な子供達とのふれあい 大阪シーリング印刷(株) 藍 昌光

この度は、第十二回日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂き誠に有難うございました。

私は上海には何度か行きましたが大連を訪れるのは今回が初めてでした。日本に比べて緑が無い中国農村部の風景を見ると、今年上海万博で沸き立つ中国の経済発展の裏に隠れた環境破壊の問題点に直面した思いでした。

同時に改めて、この植林実践活動の意義深さを実感いたしました。当日の植林活動では、地元の方々の熱烈な歓迎ぶりに驚きましたし、更にテレビ局の取材まで入る光景を目の当たりにして、改めて実践会の活動主旨が広がりをかせている事を強く感じました。今後の益々の発展が楽しみです。

一緒に手伝ってくれた現地の小・中学生とは言葉が通じなかつたので交流はあまりできませんでした。素朴で純粋な子供達と触れ合うことができて更に有意義な体験になりました。

今まで環境活動というものを具体的に行なつた事の無かつた私にとって今回の



込み上げるものが 京葉流通倉庫(株) 轟 克博

この度は日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂きましてありがとうございました。

私は今回初めての参加でしたが、この活動の概要は以前から弊社内で聞いておりました。今、日本に戻ってきて感じるのは、感慨深い思い出ができた、としみじみと思えます。

大連に関しての知識は「歴史の教科書」程度の物しか無く、出発前は「興味半分、不安半分」といった感じでした。ツアー後半の観光で見た青島、教週間前に見た

植林活動は素晴らしい体験でした。事務局の皆様、またこの活動を通じて新たな親交を深める事ができた参加各企業の皆様に深く御礼申し上げます。機会がありましたら、または是非参加させて頂きたいと思えます。

そして、この素晴らしい植林事業が今後も継続され益々発展していく事を心から願っております。ありがとうございました。



上海と比較すると今から思えば大連の町並みはちょっと寂しく感じるものでした。

バスで植林地へ向かう途中もずっと景色を観察しておりましたが、郊外に行けば行くほど人が無く、また緑も殆ど無いように感じました。現地では中学生達が迎えてくれて、やはり地元あげてのイベントなのだ、と感激しました。また、記念碑に自分の名前が刻まれているのを見て驚きました。ここにずっと自分の名前が残るのか、と考えると何か自

分の胸の中に込み上げるものがありました。地元の中学生と一緒に活動した事はとても楽しかったです。

日頃は仕事で取り組み「企業活動」を通して御客様に貢献したり、また昨今はCSR（企業の社会的責任）が声高に聞かれ注目されてはおりますが、それらとは異なった立場、違った視点、姿勢での今回の活動に参加させて頂き、実際体験してみても、自分の視野がまた少し広がったように思います。

また機会があれば是非参加させて頂きたいと思っております。ありがとうございます。



更に活気溢れる地域へ 東商化学(株) 森山 仁

この度は、第十二回日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂いたこと、誠に有難うございました。一昨年に続き二回目の参加で、有意義な活動を再度経験できた事たいへん感謝しております。

今回も懇親会、セレモニーなど現地の方々、政府関係者及び企業関係者の皆様に歓迎していただき、植林に対する熱い思いが感じられたツアーでした。

植林活動当日の朝は、雨が降っていましたが、現場に到着した頃には晴天になっておりました。天候もさることながら参加者全員が熱心に植林に取り組み、本当にすがすがしい気分です。また、現地の人々へ挨拶ができました。また、現地の数ヶ所を回ると、植林済みの土地が広がっているのを見て、地元のみならずの頑張りとともに、環境保全の大切さが地域全体に浸透していると実感致しました。

植林後、現地小中学生との意見交換会を拝見させていただきました。植林活動事業の意義として、地盤の安定化、水源の確保、生態系の保全などの意見交換は、私を含め子供達にとっても非常に貴重な経験、勉強になったと思っております。



今回も素晴らしい体験をさせて頂いたこと、事務局の皆様、今回ご参加の各企業の皆様、大変お世話になりましたこと深く御礼申し上げます。機会がありましたら、また参加させて頂いたことと思っております。有難うございました。

最後に、今回も素晴らしい体験をさせて頂いたこと、事務局の皆様、今回ご参加の各企業の皆様、大変お世話になりましたこと深く御礼申し上げます。機会がありましたら、また参加させて頂いたことと思っております。有難うございました。



自然と人を育てる活動 旭化成パックス(株) 永井 紀彦

今回で十二回目となる日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂きまして誠に有難うございました。この様な有意義な活動を体験できた事に大変感謝しております。

私自身は初めての参加で、植林活動だけでなく、目まぐるしい経済発展途上の中国の都市部と農村部を見て回ることができるところで期待感一杯でした。

バスの車窓から見える大連市内は、至るところで途切れることなく高層ビル・マンションが建設されており、栄える中国の一端を垣間見ることができました。

一方、郊外にでると緑のない、荒野のような土色の世界が行けども行けども広がるばかりなのは、愕然とするばかりで、また、途中の川には生活ゴミ・粗大ゴミが捨てられ散乱する有様で、経済発展を最優先にするが故の負の一面をみたよう



子供達の熱い思いを感じ アオト印刷(株) 鹿島 洋一

今回、第十二回日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂きまして、誠にありがとうございます。

初参加で初めての中国行きでしたが、テレビや新聞報道などでマイナスイメージを持っていた自分としては、正直不安な気持ちと、かなりの緊張とでの出発でした。

大連周水子空港に到着し、空港からバスで大連市内に移動中、高層ビルや混雑する車と華やかな町並みを見て中国の発展の凄さに驚かされました。しかし、郊外に出てみると汚れた川と寂れた家屋が多く、まるで砂漠の大地のようで驚かされ、大都市との貧富の差やインフラ整備の格差を感じました。

実際に中国に来てみて、日本は緑が多

に思いました。

友好植林実践会では、中学生の子どもたちと一緒に苗木を植えていきましたが、この植林活動は、単に地球環境のためだけでなく、就労の場が乏しい農村部に、苗木の育成や管理、そして数十年後には銀杏・紅葉・トウヒが成長し現地の人々の安定した生活にも繋がる重要な取り組みでもあります。一緒に苗木を植えた子どもたちも自然環境の重要性を認識するきっかけになる活動であり、地球の将来を担う「自然と人」を育て創り上げていく素晴らしい実践会であることに感銘を受けました。

最後になりましたが、今後ともこの実践会の益々の発展と植林活動が継続的に実施されます事を祈念いたしております。本当に有難うございました。



します。この経験を今後の糧とし、環境問題を考える上で自信となり他の多くの人もも伝えていきたいと思っております。

最後になりますが、事務局の方々の念入りな準備と打ち合わせで、無事成功で終わり、また、大連などでの高級なホテルを用意して頂き、沢山の方々と交流が出来たことを心から感謝いたします。

この場をお借りして御礼申し上げます。



末永い緑の存続を
 デイバーン（株） 日野原 靖士

この度は、日中環境保全友好植林実践会に参加させていただきまして本当に有難う御座いました。この場をお借りいたしまして深く御礼を申し上げます。

一昨年に一度ご一緒させて頂いており、今回で二回目の参加となりました。

前回も感じたことですが、やはりこの会に参加させて頂く事で一番に感じるのが「環境についてもっと真剣に考えなければ」ということです。木を植えることで、土壌や河川につながりやがては大地にまで発展することを考えますと、小さな地道な努力が大きな力を生み出すことになるということを痛感いたします。実際に植林活動の現場に着くと、現地の方々の盛大な歓迎を受け、すばらしい

行事に参加させて頂いていることを改めて実感することが出来ました。セレモニーの後に小中学生と一緒に長靴を履いてスコップを持ちながら木を植えていくわけですが、言葉は通じなくても一緒に植えていくことで、言葉の壁を越えることが出来たように感じました。植えた木々が大きく茂り豊かな緑が末永く存続することを想像すると、とても穏やかな気持ちにさせられます。この会が途絶えることなく続き、今後も積極的に参加をさせて頂きたいと考えております。最後になりますが、この会に参加させて頂ける機会を頂いたことに本当に感謝いたしております。



植林木を守るという強い思い
 水野産業（株） 水野 潤

第十二回日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂きまして誠に有難うござ

いました。事務局を始め、植林に参加された方々、現地の方々、そして中国・日本各政府の皆様のおかげで大成功のうち植林することができました。これほどスムーズに植林活動がされているのに驚かされました。事務局の皆様、本当に有り難う御座いました。そして皆様、本当にお疲れ様でした。

小職は初めて参加させて頂きましたが、こうした一大プロジェクトに参加致し、環境に対する皆様（現地の方も含む）の想いを肌で感じる事ができたのは本当に喜ばしい事でした。

また何より、現地の小学生との座談会もとても印象に残りました。「自分たちは木々を残したいのに大人たちが伐採してしまつたらどうするの」と、という凄く現実的な質問が飛び交い、「現地政府とは向こう五十年間は伐採しないという契約をしている」という事務局からの回答に子供



たちの安堵の様子も見ることができたと共に、自分たちが住む地域の環境に改めて目を向け、今回植林した植林木を自分たちで守っていきたいという強い思いを感じる事ができました。人として、本当に大事な教育活動にも参加させて頂き嬉しく思いました。

昨今、日本では「エコガールズ」とか「ガールズエコ活動」という言葉が聞かれ、ファッションの一部になるほど、徐々にですがエコ活動が身近になってきました。また、今回の植林事業を他者に話す皆様は羨ましがられ、どうやたら植林事業を成功させることができるのかを聞かれるくらい環境意識が高まっています。

来年も同じ場所で植林活動が行われると聞いております。是非、ご興味のある方は事務局までお問い合わせをして頂ければ幸いです。そして、これほど立派で伝統ある「日中環境保全友好植林実践会」主催の来年の植林活動でお会いできるのを楽しみにして居ります。

謝辞



女の子に教えられ
 水野産業（株） 綿貫 慎吾

この度は、日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂きまして有り難う御座いました。

今回は、初めての中国初めての植林でした。正直なところ参加前はあまり中国に対する知識や興味が無く、漠然としたイメージしか有りませんでした。しかし、4日間という僅かな期間で生の中国に触れていくにつれ、日々そのイメージが変わるのを実感しました。

まず驚いたのは、高速道路で移動中に見た、中国の景色でした。果てしなく広がる土地はイメージ通りなのですが、緑が全く無い・・・。中国イコール自然が豊富という間違つたイメージはすぐに払拭され、事の重大さを実感しました。そして、実際に植林を行ってみると、自分が植えた木の数や面積は、その広大な大地から見れば「点」にすらならないっほけなものだと痛感しました。

現地の子供達との意見交換会の場で、その中の一人の女の子が言った「植林をした木を、誰かが取ってしまったらどうするの？」という質問が、とても印象的でした。木が林になり森となるには、10年、20年という長い月日が必要ですが、自分はその中の僅か数時間しか携わっていません。勝手に植林とは木を植えるだけと思ひ込み、その後の木の世話をす



人々の事は考えた事ありませんでした。木を植える事以上に、木の管理をする人達や、周りの人たちの環境に対する意識がとても重要だと、その女の子に教えられた気がします。

4日間という短い期間でしたが、沢山の方に会え、沢山の事を知り、とても充実した時間が過ごせました。今後は、自分なりに植林の素晴らしさを周りの人に伝え、「点」を少しでも大きく出来るよう努力します。貴重な体験をさせて頂いただけ、本当にありがとうございました。



未来の子供たちに
 水野産業（株） 高橋 雅樹

この度は第十二回日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂き、有難う御座いました。

今回私自身中国への渡航・植林活動にも初めての事でしたが非常に有意義で貴重な体験をさせて頂きました。まず大連空港に到着し宿泊先までの道

のりで驚かされたのは街のあちこちで高層ビル等の建設が進んでおりまた、交通量の多さや走っている車も比較的高級な車種が多く都市化が予想以上に進んでいる事です。今年には上海万博開催もあり、またGDPでは日本を抜き世界第2位となる事も確実とされており、中国の経済

成長の勢いを感じずにはいられませんが、ただ気になる事は経済の成長とともに環境破壊も進んでしまっているのではなからうかという事です。季節的な事もあったのかもしれませんがほとんど緑の木々は見受けられず、枯れ木と石ばかりの街並みだという印象を受けました。

翌日、大連中心部から約110km離れた今回植林を行なう花園口へ向かったのですが、やはり車窓から見えるのは荒涼とした景色ばかりでした。バスで2時間弱かけて目的地の花園口経済区老古林村に到着、すでに地元の中学生・村民の方400名、開発区の岩崎電気様の201名が到着しており間もなく子供たちのブラスバンドの演奏と共に式典が行なわれました。その際、荒涼とした景色とは好対照に小さな子供たちがみなとても楽しそうな笑顔でしゃしゃいでいたのがとても印象に残りました。

いよいよ植林が始まり地元の中学一年生と一緒に苗木を数本植えました。お互い言葉は通じませんが、この苗木が10年、20年後には立派な大木に育ち、この土地一面を緑で覆いつくすことを思い浮かべながら身振り手振りですいすい



将来のために

第十二回日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂き、有難うございました。弊社の取り組みとして毎年、社員数名が事務局員として参加しておりますが正直、今まで私自身植林に対して意識は薄かったです。

今回参加が決定して以来、初めての中国に異常なほどの不安と抵抗感を持っておりましたが、実際に参加し植林を終えて今思う事は「参加してよかった!」「是非次回も参加したい!」この様な思いに変わりました。

毎年参加されている皆様はこの様な感動を毎年味わう為に続けているのではな

なっている一本一本丁寧に植林を行ないました。今回の植林活動では銀杏、トウヒ、もみじの3種類の苗木を合計で4万本余りを植えました。中国の広大な大地からすればほんの一部分だと思えます。

この植林活動が今後も継続して行われ、中国のみならず世界各国にも広がる環境破壊で病んでいる私たちの地球が元を取り戻し、未来の子供たちに自然環境の豊かな大地を残すことにつながって行く事を願うと共に、自分自身今まで以上に環境問題について意識し、身近なことから環境負荷を減らす行動をしていきたいと思えます。



水野産業(株) 木下 臣成

いか、と感じました。大連空港に着いて市内に入ってから第一印象は「霞んでいる?」「黄砂?」「スモッグが掛かっているのか?」でした。色々な所で工事が行われており、その影響もあるのかも。

植林当日は朝から雨が降っており強烈な寒さでしたが、参加者の日頃の行いがいいのか植林への思いが強いのか、植林開始時には晴れ間が出てきました。

一緒に手伝ってくれた中学生が印象的で、言葉が通じない事は向こうも分かっている気が使ってくれたと思います。目が合う度にニコリ笑ってくれて、一つ

一つの作業を楽しそうにしてくれて、こちらがそれがうれしくて次から次へ。植林を追って参加者数人と話している時にも言葉が通じないのに一緒に居てくれてニコニコと最後までほんわかとした時間にしてくれました。その子が自分たちの集合場所へ戻る時に友達と走って行きながらこちらに手を振って笑顔で「再会! (ザイチェン) :」ほんとうにうれしかったです。

植林に対する気持ちや考え方は参加者それぞれ立場や参加する動機で違うと思えます。現地の人たちの捕らえ方もそれぞれの立場で違うと思えます。参加してくれた現地の子供たちも今、何をすればいいのか、何故植林なのか、今やらなければ将来どうなるのか、植林と言う事自体の意味も理解していないかも知れない。

今はそんな状態でも将来「自分たちが植えた木のお陰で住みやすい環境になった!」

「そう言えは子供の頃に木を植えたな〜!」「あの時にやっていた良かった!」「今度は自分たちが違う国へ植林をしてあげよう!」等々その時になってそう考え、そう思っていたと思います。

大事な事は植林をする今の理由や目的



初めての「植林」

この度は日中環境保全友好植林実践会に参加させて頂き有難うございました。

今回が始めての参加となり、過去に参加された方から色々驚かされるような事を聞かされていたせいか、出発当日の飛行機の中でも気分が乗らず、業務の一つとして踏ん切りを付けていた事を思い出します。

中国に着いてからのバス移動の際に私の知っている自然とは大きく掛け離れた茶色の山、灰色の空が目に移り見事に期待を裏切ってくれました。

ではなく、将来ではないかと。数十年後にこの植林のお陰で空がすっきりと澄んでいる大連の町、老古林村を想像しております。

今回の植林会参加で一つ事務局へご提案がございます。ツアー参加の「ガイドブック」の一ページに日常会話程度、もしくは簡単な中国語を乗せて頂けないでしょうか、あれだけ感動させてくれた子



水野産業(株) 佐藤 直哉

車中に思った事は当たり前ですが、植林先は中国であり私達の国ではありません。だからこそ相互を理解、尊重して親睦を深める事が大切だと感じました。

また、「植林する」ではなく、大袈裟に言えば地球に対して「植林させて頂く」と感謝、普段の生活の反省を忘れては次世代に伝える事が出来ないのではないかと感じました。

実際の植林活動に話を移しますと、多くの方々のご参加、ご協力もあり、作業に掛かる時間はそれほど長くなく力仕事



供達に何も伝えきれなかった事が今、残念でなりません。その様な思いもあり冒頭の「是非次回も参加したい!」でした。よろしく御検討願います。

最後に今回参加されました皆様、関係者の皆様へこの場をお借りしてお礼申し上げます。

大変お世話になりました。

をしたと実感するまでに至らなかったのは少し残念に感じました。ただ、今回参加させて頂き一番感じた事は地球環境を意識するには生活水準、収入が必要であり、お金を生む樹木を植林して水資源、収入の確保といった環境面、経済面の両面から「植林」を考えさせられた事です。最後になりましたが、植林させて頂いた樹木の成長を将来、自分の目で確認をしたいと強く思います。今回の植林活動を通じて皆様と親交を深めさせて頂いた事を非常に嬉しく思います。大変お世話になりました。誠に有難うございました。



恩返し

水野産業(株) 黄洋

今年 は始めて遼寧省大連市での活動となりますが、無事に新しいスタートを切りました。私は中国での大学時代を大連市で過ごしましたので、現地に恩返しする気持ちで今回の植林に臨みました。

最近、黄砂等の環境問題は中国だけではなく日本でも注目されており、間違ひなく私の子供の頃より、経済は発展している一方、周りの環境は逆に破壊され、厳しくなると強く感じております。環境問題はむしろこれから中国が直面する大きな課題であり、このまま放置しますと、将来的に今日の経済成長より遙かに大きい代償を払うことになるだろうと心配があります。幸い、当局もそんな局面に気付き対策を積極的に講じ、われわれの活動に対する暖かい協力と応援はその反映だと思えます。

実際の活動も大事ですし、次世代へのバトンタッチはある意味でもっと大事だと思えます。子供たちに理解してもらい、一緒に参加してもらい、自発的に環境保護へ取り込んでもらえるような形は何より理想だと思います。今回の現地の中学生との座談会、初めて外国人と接する子供たちの純粋な目を見て、自分自身も



なる「通訳」だけではなく本当の「架け橋」の役割を果たせた気持ちになり、大変やりがいを感じました。今回の活動で初めて中国に行かれた方もいて、皆様本当にお疲れ様でした。実践会の活動は皆様の応援がなければ成り立たないので、これからもよろしくお願ひ致します。来年のご参加も心よりお待ちしております。



現地でお世話になった方々

- 王芸波 大連市人民政府政協副主席
- 呉志超 大連市対外友好協会副会長
- 劉徳春 大連市対外貿易経済合作局局長
- 王長迅 大連市林業局副局長
- 劉曉陽 大連市対外貿易経済合作局副局長
- 郝 宏 大連市林業局造林処処長
- 呉曉穎 大連ALICE有限公司
- 詹誉賢 大連ALICE有限公司
- 孫竜業 管委會副主任
- 王永福 管委會副主任
- 蘇 暢 経済区招商一局局長
- 常 春 社管局党工委书记、明陽街道党工委书记

- 許曉奎 社管局局長、明陽街道主任
- 張全永 社管局副局長
- 宋順敏 社管局副局長
- 張長永 社管局副局長
- 呂 勳 社管局副局長
- 崔天長 社管局党工委委員
- 王銀徳 社管局党工委委員
- 叢敬心 社管局林業負責人
- 姜言波 大連投資促進センター
- 王志運 岫岩縣貿易促進会副会長
- 王玉波 岫岩縣林業局林科所秘書長
- 阮樹安 遼寧省經濟林研究所



会員及び寄付募集のご案内

設立趣旨書

(平成16年8月4日認証)

昨今地球を取巻く環境は、先進諸国の産業の発達と、発展途上国による急激な経済活動の活発化とともに悪化の一途を辿っています。

酸性雨、野生動物の減少・生態系破壊、温暖化現象、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化、海洋汚染など様々な要素が絡み合って環境悪化を招いております。

特に最近では地球温暖化による様々な気象その他への悪影響を懸念する専門家の声が増しに拡大しており、京都議定書に象徴されるように、各国がその悪影響を認識しCO₂の削減目標数値を具体的な形で上げるなど、地球環境を守ろうとする国や人々の意思が増大しております。

我々地球に生き、生活している以上、未来永劫子々孫々のためにも住みやすい緑豊かな地球環境を守る義務があります。

CO₂の削減には、様々な産業活動での排出規制も大事ですが、植林などによる森林の増加は、一方で多様な地球環境保全効果が絶大であると言われていることは周知の通りです。

日中環境保全友好植林実践会はこれまで、緑豊かな森林が地球に及ぼす好影響と、日本でも多く消費される割箸などの原料としての木材の正しい供給を踏まえ、森林破壊が懸念される中国での植林の実践を通じ、地球環境保全と緑化増進に寄与するため過去5年間に渡り中国黒龍江省饒河県にて計50万本のカラマツ等の苗木の植林事業を実施して参りました。

そして今後も、中国北部の緑化のための植林事業を推進すること等により、環境の保全に寄与することを目的として特定非営利活動法人日中環境保全友好植林実践会を設立します。

主な事業

- 中国の緑化推進のための植林事業
- 中国の緑化推進のための植林事業の広報誌などによる普及啓発事業
- 中国の緑化推進のための森林保全に関する調査、研究、情報収集事業
- 中国の緑化推進のための地球環境保全・改善事業
- その他目的を達成するために必要な事業

お申し込み方法

会の所定用紙(申込書)に必要な事項をご記入の上、FAXまたは当会ホームページのE-メールにてお申し込み下さい。会費は、右記口座あてお振込みくださいますようお願いいたします。なお、お振込み料金は、貴台にてご負担いただきたく存じます。

お申込書

個人正会員 団体及び法人正会員 寄付

お申込日 | 平成 年 月 日

フリガナ | _____ 業種

お名前 | _____

〒□□□-□□□□

ご自宅住所 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

〒□□□-□□□□

勤務先住所 | _____

勤務先名 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

E-mail | _____

会費

個人正会員	10,000円(1口/1口以上)
団体及び法人正会員	50,000円(1口/1口以上)
寄付	3,000円(1口/1口以上)

●FAXにて、下記番号あてにお申し込み下さい。

FAX番号 03-3836-5215

●お振込先

会費は下記口座あてお振込みくださいますようお願い致します。
なお、お振込み料金は、貴台にてご負担くださいますようお願い致します。

お振込み先	三菱東京UFJ銀行 秋葉原支店
口座番号	普通預金 3951682
口座名義	日中環境保全友好植林実践会 事務局長 中田 武巳(ナカタ タケミ)

●ご連絡先

特定非営利活動法人 日中環境保全友好植林実践会事務局
TEL 03-3836-9408 URL <http://www.syokurin.com>
E-mail: info@syokurin.com

編集後記

この活動も12回を数えると思うと感慨深いものを感じます。今回の植林地は中国の5点一線発展戦略の一つである「大連花園口経済区」にて行なわれました。このプロジェクトは特に環境に注視して開発を行うことを一つのコンセプトにしており、その理念に「和を以て貴となし、人と自然の調和を保証する」とあり、我々NPOの意思と当地経済区との意向が一致した植林でした。

地元の子供達に必ず参加していただくという信念で我々NPOは、今回も地元の小中学生300名に参加いただき、また一昨年から毎年大勢で参加いただいている大連岩崎電気様ご一行の57名の子供達を含め計201名、その他地元住民など合わせて総勢約650名により、銀杏、紅葉、トウヒなど今回の植樹

は10haに計4万本となりました。植林活動を行う参加者の充実した笑顔を当日は地元のテレビ局も取材に訪れるなど、現在の中国は環境保全のための植林に対する注目度が大いであることを感じました。

(事務局長 中田武己)

